

## 小袋豆でS Q F 認証 J A 帯広かわにし

2017年3月3日

J A 帯広かわにし（有塚利宣組合長）は、西帯広事業所で製造している小袋包装の豆で、食品の国際認証規格「S Q F」の取得を目指している。形状や風味といった品質面の保証で付加価値を高め、市場の維持と販売強化につなげる狙い。早ければ5月にも承認される。豆類でのS Q F 取得は国内初。

### 品質差別化へ5月にも



S Q F 認証の取得を目指している小袋豆の製造工程（J A 帯広かわにし西帯広事業所）

同事業所の豆類小袋計量包装施設は、2006年に食品衛生管理の国際規格「H A C C P（ハサップ）」認証を受けている。安全面の証明に加えて、今回のS Q Fにより形や味という品質面でも第三者の証明を受ける。同J Aでは海外輸出が増えているナガイモもS Q Fの取得を目指している。

対象になるのは、業務用の選別後の2次選別から製品出荷までの工程。手よりや袋詰め

の工程で同J A独自の管理項目を設け、形状や色、風味などが管理されているかどうかを保証する。同J Aによると、S Q F 認証取得はレタスなどの野菜ではあるが、豆類では国内初。

同事業所では、小豆や大納言小豆、大正金時、大豆などの小袋豆を製造。J A 帯広かわにしのブランドの他、プライベートブランドの製品など52品目を製造、出荷している。豆の消費量が減少する中、他産地との競合も激しくなっており、認証取得で差別化を図る。

認証機関の1次審査が来週、最終審査が4月に予定され、早ければ1カ月程度で承認が下りる見通し。同J A 農産部の部田基雄部長は「乾物豆の国内メーカーが数多い中、販路維持、拡大で国内競争に打ち勝つための取り組み。ハサップに加えてアピールポイントになる」と話す。

### < S Q F >

S a f e（安全で）Q u a l i t y（高品質な）F o o d（食品）の略。国際的な食品業界が承認している規格の一つ。認証品にはS Q Fの認証マークが付けられる。主に畜産業界で取得が進んでいる。

## 芽室復興へ寄付5000万円 J A が町に

2017年3月6日

【芽室】J A めむろ（辻勇組合長）は、昨夏の台風10号による農業被害の復興に役立ててもらおうと、町に5000万円を寄付することを決めた。町によると、今回の台風災害の義援金で最高額となる。

台風10号による町内の農地被災面積は107.9ヘクタール。町は1月、農地の復旧事業について、農業者の自己負担分を全額免除する考えを示した。

これを受け、J A としても組合員の負担軽減に向け、農地の回復や、用水路など農業用施設の復旧に活用して

もらおうと、2月の理事会で寄付を決めた。同J A では昨年12月に組合員に見舞金を支出している。

辻組合長は「町は営農用水の断水で3カ月水を運んだり、いろいろな形で復興に向けやってきてくれた。農業者の助成、農業振興に使ってもらえれば」と話している。

10日に辻組合長が町役場を訪れ、宮西義憲町長に目録を贈呈する。